

アンケート

日本うつ病学会・うつ病治療ガイドラインの改訂



監修

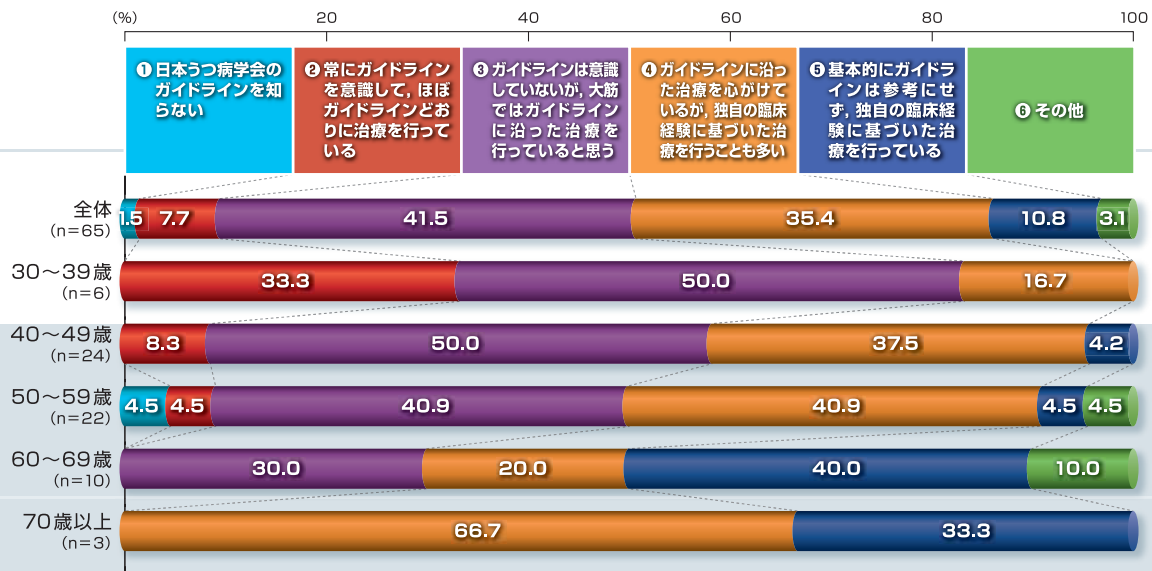
川崎 弘詔

福岡大学医学部
精神医学教室教授

■ アンケート概要

実施日：2016年10月20日～11月17日

対象：主に、過去5年間に日本うつ病学会・日本精神神経学会・日本神経精神薬理学会・日本臨床神経薬理学会などでうつ病に関する発表を行った研究者、もしくは市中病院・クリニックでうつ病診療に携わっている医療従事者



Q1A 日常のうつ病診療で日本うつ病学会のうつ病治療ガイドラインを参照・活用していますか。 複数回答不可

■ 回答者コメント

- ② 常にガイドラインを意識して、ほぼガイドラインどおりに治療を行っている
ガイドラインには従っているが、うまくいかない場合は個別性なども考慮している。
- ④ ガイドラインに沿った治療を心がけているが、独自の臨床経験に基づいた治療を行うことも多い
患者の病状には性格要因や環境要因などのさまざまな要因が影響しており、ガイドラインどおりにいかないことがある。
- ⑤ 基本的にガイドラインは参考にせず、独自の臨床経験に基づいた治療を行っている
ガイドラインを策定する際にもあまりにもEBMのエビデンスばかりに目が向き、実際の臨床経験（症例報告等）を軽視しすぎている。

■ 監修コメント

全体としては、「大筋ではガイドラインに沿った治療」と「ガイドラインを心がけているが、独自の臨床経験に基づいた治療も行う」が大半を占めた。世代別にみると、年齢が上がるほど「ガイドラインどおりに治療する」割合が減り、「独自の臨床経験に基づいた治療を行う」割合が増えている傾向がみられ、興味深い。一方で、エビデンスを偏重しすぎる傾向がある点を戒める指摘もみられた。